作成日: 令和4年4月13日

必修・選択 必修 投票形式 講義 時間数 30時間 投票極悪、目的。	科目名								
対象学科			津野 英夫			授業の有無			
 必修・選択 必修・選択 で名表別・電子回路の制作とそれに関わる理論を会類に、また、でき得き報目内での電子・温信に関めてよればでもある電子回路・プログラミング・工作技術・モータおよび駆動間的制作を行う。 1、第子回路に関する計算・論理を選択し、それを多とした常常、実質 2、電子回路に関する計算・論理を選択し、それを多とした常常、実質 2、電子回路に関する計算・論理を選択し、表れを多とした常常、実質 2、電子回路に関する計算・論理を選択し、表れを多とした常常、実質 2、電子回路に関する計算・論理を表別・表別を持り入しているによって知識とスキルの向上を図 3、講義・選事事用・実技・反名・他記一個を発験しまっての、質の高いは音を習する。 スなる(上位の資格限件・電気主任技物を「個数三型 ・ 電気通信エキ別任者 計級デジタル通信 ジタル場信・2級電気が信工事出で管理 ・ 2級電気工事集工管理 ・ 3の取りを目指す。 テキスト・教材・参数に乗り、 第一項を表別を関する ・ 「電気通信工事施工管理・ 3級等・その他資料				対象学年			開講時期	前期	
接来の進め方 「一葉一回路に関する計算と設定を開発」、それを基とした深刻、実習 「中国部に関する計算と設定を開発」、それを基とした深刻、実習 「中国部に関する計算と設定を開発」、それを基とした深刻、実習 「中国部に関する計算と設定を開発」、それを基とした深刻、実習 「中国部に関する主要学習と実現、解放と繰り返すことで、質の高い技術を習得する。 「大夫スト、数材・参 ・			必修	授業形式	t	 講義	 時間数	80時間	
(到達目標)			 電子回路に関する計算と論理を講義し、それを基とした演習、実習 電子回路に関する基礎学習と実習、解説を繰り返し行うことによって知識とスキルの向上を図る。 						
大学大大・教材・参 表図書・その他資料 数料書 : 『工事担任者 第1級デジタル通信 標準テキスト』 ・ 『電気通信工事施工管理・ 『できぬき入門』 ・ 「電気数学入門』 ・ 「アジタル回路入門」 ・ 「電気数学入門』 ・ 「アジタルとは作本理解とせる」 ・ 「海型回路との取り との関係	学習目標		次なる《上位の資格取得=電気主任技術者(電験三種) ・電気通信工事担任者 第1級デジタル通信/第2級テ						
表図書・その他資料 講師・印刷物の配布資料 : 『電験三種 『デジタル回路入門』・『電気数学入門』 授業計画とその取り組みについての説明	(到達目標)		ジタル通信・2級電気通信工事施工管理士 ・2級電気工事施工管理士》の取得を目指す。						
授業計画とその取り組みについての説明									
1 ・四則計算・分数・小数・文字式・べき数の計算 ・2 進数・1 6 進数・Binary・B C D ・ 論理回路とブール代数(工担でも必要)との関係 2 ・指数計算・三角関数・√・累乗根 電子回路の理論と制作 3 ①論理回路の学習②ブール代数・ペン図・真理値表③ ブール代数とリレー回路との比較 リレー回路の回路図と制作 4 ①自己保持回路とインターロック ②タイマー回路とかウンタ回路 シーケンサ(P L C) 制御回路の回路図と制作 ②ソフトウェアとしての制御型の制作 ②ソフトウェアとしての制御プログラミング 6 ③作品の企画立案・設計および制作 ④自己作品の評価と反省・・随時行う・・・不具合の修正 定期考査試験 7 『エ事担任者試験』『電気通信工事施工管理技士』『電験三種』の過去問題にて行う 8 9 10 評価方法・成績評価基準	NO.					学習力	法・準備学習	・備考	
2 ・指数計算・三角関数・√・累乗根 電子回路の理論と制作 3 ①論理回路の学習②ブール代数・ベン図・真理値表③ ブール代数とリレー回路との比較 リレー回路の回路図と制作 (1) ①(②の論理を理解し、回路を制作 準備学習・配布資料に基づき回路構成の意味を学習と作 (2) ② タイマー回路とカウンタ回路 (3) ② タイマー回路とカウンタ回路 (3) 「ハードウェアとしての制御ごログラミング (3) 作品の企画立案・設計および制作 (4) ①自己作品の評価と反省・・随時行う・・・不具合の修正 定期考査試験 (3) 「工事担任者試験」「電気通信工事施工管理技士」「電 第級デジタル通信および電験三種 対応試験を計10回位行い、成績に反映させる。 (4) 「関係にの企画立案・設計および制作 (4) 「日本の評価と反省・・随時行う・・・・不具合の修正 (5) 「日本の評価と反省・・随時行う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	・四則計算・分数・小数・文字式・べき数の計算 ・2進数・16進数・Binary・BCD			①各種計算方法と論理の理解を目指し、デジタルとは何かの基本を理解させる				
3 ①論理回路の学習②ブール代数・ベン図・真理値表③ ブール代数とリレー回路との比較 リレー回路の回路図と制作 4 ①自己保持回路とインターロック ②タイマー回路とカウンタ回路 ジーケンサ(PLC)制御回路の回路図と制作 5 ①ハードウェアとしての制御盤の制作 ②ソフトウェアとしての制御がログラミング 6 ③作品の企画立案・設計および制作 ④自己作品の評価と反省・・・・ 随時行う・・・・ 不具合の修正 定期考査試験 ア 『工事担任者試験』『電気通信工事施工管理技士』『電験三種』の過去問題にて行う 8 9 10 PI価方法・成績評価基準	2					(4)準備子省 : 数字の基礎復省と演習			
4 ①自己保持回路とインターロック ②タイマー回路とカウンタ回路 シーケンサ (PLC) 制御回路の回路図と制作 5 ①ハードウェアとしての制御盤の制作 ②ソフトウェアとしての制御盤の制作 ②ソフトウェアとしての制御がログラミング 6 ③作品の企画立案・設計および制作 ④自己作品の評価と反省・・・・ 随時行う・・・・ 不具合の修正 定期考査試験 7 『工事担任者試験』『電気通信工事施工管理技士』『電験三種』の過去問題にて行う 8 9 10 評価方法・成績評価基準 平常点	3	①論理回路の学習②ブール代数・ベン図・真理値表③							
5 ①ハードウェアとしての制御盤の制作 ②ソフトウェアとしての制御プログラミング ①~②の論理を理解し、回路を制作 6 ③作品の企画立案・設計および制作 《自己作品の評価と反省…随時行う…不具合の修正 パソコンを使ってのプログラミング 定期考査試験 万法 : 演習課題試験→解法→解説 7 『工事担任者試験』『電気通信工事施工管理技士』『電 東注任者試験』『電気通信工事施工管理技士』『電 対応試験を計10回位行い、成績に反映させる。 8 「本語」の過去問題にて行う 8 「本語」の過去問題にで行う 9 「本語」の過去問題にで行う 8 「本語」の過去問題にで行う 9 「本語」の過去問題にで行う 8 「本語」の過去問題にで行い、成績に反映させる。 9 「本語」の過去問題にで行い、成績に反映させる。 9 「本語」の表示では、「本語」の表示では、「本語」の表示では、「表示」を表しまします。また、企学と実技を並行して行い、その際にスピードだけでなまり、「本語」と記述書」をおります。また、企学と実技を並行して行い、を持しいます。また、企学と実技を並行して行い、を持しいます。また、に関記力》よりも下、また、企業とは「本語」を表します。「本語」の表示では、「表記」の表示では、「本語」といます。」をは、「本語」といます。」をは、「本語」といます。」をは、「本語」といます。」をは、「本語」といます。」をは、「本語」といます。」をは、「本語」といます。」をは、「本語」といます。」をは、「本語」といます。」をは、「本語」といます。」といます。」をは、「本語」といます。」といます。」といます。」といます。」といまする、「本語」といます。」といます。」といます。」といます。」といます。」といます。」といます。」といます。」といます。」といまする、「本語」といます。」といます。」といます。」といます。」といます。」といます。」といます。」といます。」といます。」といまする、「本語」といます。」といます。」といまする、「本語」といまする、「本語」といます。」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする。」といまする、「本語」といまする。」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする。」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする。」といまする、「本語」」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする、「本語」といまする。「本語」といまする、「本語」といまする。」と	4	①自己保持回路とインターロック							
 ④自己作品の評価と反省…随時行う…不具合の修正 定期考査試験 7 『工事担任者試験』『電気通信工事施工管理技士』『電験三種』の過去問題にて行う 8 9 10 評価方法・成績評価基準 平常点 評価試験 ま評価試験 常に理論的な裏付けを習慣づけることを指針に指導する。また、座学と実技を並行して行い、その際にスピードだけでなる。また、座学と実技を並行して行い、その際にスピードだけでなる。」。「正確さ」をより重視する。さらに《暗記力》よりも『されば、「は言言力」がよれることを修りであることをは、「ではこれば、これである」となりに、「ないである」とないである。 	5	①ハードウェアとしての制御盤の制作							
7 『工事担任者試験』『電気通信工事施工管理技士』『電験三種』が応試験を計10回位行い、成績に反映させる。 8 9 10 評価方法・成績評価基準 平常点 評価試験 10 % 90 % % % % % % % % % % % % % % % % %	6			パソコンを使ってのプログラミング					
9 TIO 平常点 評価試験 10 % 90 % % % がに理論的な裏付けを習慣づけることを指針に指導する。また、座学と実技を並行して行い、その際にスピードだけでなる。また、座学と実技を並行して行い、その際にスピードだけでなる。また、座学と実技を並行して行い、その際にスピードだけでなる。また、座学と実技を並行して行い、その際にスピードだけでなる。また、座学と実技を並行して行い、その際にスピードだけでなる。また、座学と実技を並行して行い、その際にスピードだけでなる。また、座学と実技を並行して行い、その際にスピードだけでなる。また、座学と実技を並行して行い、その際にスピードだけでなる。また、座学と実技を並行の表表に表情に要求する。また。特に要求する。また。特に要求する。また。特に要求する。また。特に要求する。また。特に要求する。また。特に要求する。また。特に要求する。また。特に要求する。また。特に要求する。また。特に要求する。また。特に要求する。また。特に要求する。また。特に要求する。また。特に要求する。また。特に要求する。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。	7	『工事担任者試験』『電気通信工事施工管理技士』『電				第1級デジタル通信/第2級デジタル通信および電験三種の受験			
10	8								
評価方法・成績評価基準 <th a="" be="" c<="" color="" green="" of="" rowspan="2" td="" the="" to=""><td>9</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></th>	<td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>	9							
平常点 評価試験 常に理論的な裏付けを習慣づけることを指針に指導する。また、座学と実技を並行して行い、その際にスピードだけでなる。 10 % 90 % % *** 『正確さ』をより重視する。さらに《暗記力》よりも『記力》よりも『記録して、『本記書』をよりませる。		10							
### また、座学と実技を並行して行い、その際にスピードだけでない。 ### 10 % 90 % % % では、「正確さ」をより重視する。さらに《暗記力》よりも『: ### 11 ### 12 ### 12 ### 12 ### 13 ### 13 ### 14 ### 15 ##### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 #### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 #### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ### 15 ###		評価	方法・成績評価基準	履修上の注意					
放績評価基準は	また、座学と実技を 10 % 90 % % % さ』・『正確さ』を 成績評価基準は A(80占以上)・B(70占以上)・C(60占以上)・D(59占以下)とする。						て行い、その際にス 直視する。さらに《暗 である旨を特に要求す へのとり方』を重視し	ピードだけでなく『丁寧 記力》よりも『考える る。	